

米国クラウドコンピューティング・エキスポ 日本から初出展



インテックシステム研究所
取締役クラウド事業準備室副室長
中川 郁夫

インテックシステム研究所は昨年11月、カリフォルニア州サンタクララ市で行われた「クラウドコンピューティング・エキスポ」に出展した。世界最大のクラウド関連の展示会であり、日本からの出展は同社が初めて。ブースへは200名以上が来場し、評価利用の希望も多く寄せられた。同エキスポで講演した同社の中川郁夫取締役聞いた。

Q. 今回出展した技術は？

クラウド・コンピューティングでは、数千台、数万台というコンピュータを並べ、全体を一つのアプリケーション基盤として機能させることが重要です。これを実現するのが台数を増やすことで性能や容量を拡張できるスケールアウト型のコンピューティング技術。私たちはそのためのソフトウェアを研究しており、とくに最も重要とされる「ストレージ」と「データベース」の2つの機能を独自に開発し、今回出展しました。

Q. どのような点で有用な技術ですか？

私たちの「ストレージ」技術は大量データの処理や、とても大きなデータの保管が必要になるケースで役立ちます。将来的に数ペタや数エクサという膨大な容量が必要な場合など、従来は技術的に困難とされていたケースでも、スケールアウト型の特徴を生かした拡張性の高い提案ができるようになります。

Q. AmazonやGoogleなどとの違いは？

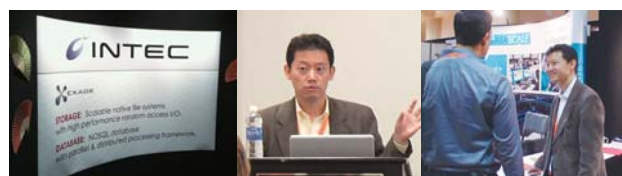
確かにAmazonやGoogleあるいはWindows Azureは、自社のサービスを実現するために類似の技術を有しています。しかし、技術そのものは第三者に提供していません。私たちはその技術をソフトウェアとして提供するので、新たなサービスをスタートしようとする事業者や、自社システムで膨大なデータ



容量や処理量を必要とする企業でも使っていただけます。また、Hadoopなど同様の領域を狙った技術もありますが、それぞれ特徴があり狙いや強みが違います。例えば、Hadoopは蓄積-バッチ処理系の大規模処理に向いていますが、私たちの技術は即時性や入出力性能に強みがあります。

Q. 米国で出展した成果は？

世界のトップ企業と直接話げできたことです。例えば、チャイナモバイルやウォルマート、そのほか世界有数の通信事業者などがスケールアウト型のデータベースの調査にきていました。我々の技術にも興味を示し、技術的にも深い議論ができました。当社の技術を試してみたい、という声もいただいています。



Q. とくに印象に残ったことは？

とくにシリコンバレーでは、突出した技術に特化してビジネスを立ち上げることが当たり前に行われており、それがスピードや密度につながっています。また、技術を核にビジネスを加速させる「仕組み」も揃っています。

現に、事業企画やビジネスコーディネーション、マーケティング、ベンチャーキャピタル、あるいはセールスに特化したプロが来場し、私たちにも協力したいと提案がありました。技術的にも厳しく評価されるわけですが、日本にはないスピード感と緊張感を感じました。実は日本から乗り込んで本エキスポで出展したのは当社が初めて。もっと日本からの技術発信が増えてほしいですね。

EXAGE について

リアルクラウド・プラットフォーム [エクセージ]

インテックシステム研究所が独自開発したPaaS技術。第1弾として、スケールアウトストレージを実現するEXAGE/Storage 2.0を昨年12月より提供している。多数の廉価なサーバを巨大な1つのコンピュータ資源として利用できるソフトウェアで、システムやサービスの拡張維持コスト、障害発生時のダウンタイム、アクセス集中によるサービス遅延などの課題を解決する。

- ①拡張性 サーバを増やすだけで格納容量と処理性能の拡張が可能。
- ②高性能 大きなファイルでも分割して並列処理し、高速で読み書き。
- ③信頼性 自律的に障害箇所を切り離し、リビルドや再配置によってデータ冗長性を維持する。